



上峰町立上峰中学校だより

ちんぜい

No.6

発行日：令和8年8月25日

発行者（文責）：校長 永田康子

学校教育目標：心豊かに たくましく生きる生徒の育成 ー自ら考え、判断し、行動する中学校生活を通してー
生徒会スローガン：オリジナル～全員の個性が輝く学校へ～

長い夏休みが終わり、学校に生徒たちの元気な声が戻ってきました。静かだった校舎に活気が戻り、生徒たちとともに二学期を迎えられることを、何よりうれしく思います。

一方、この夏は、私たちに「当たり前の日常」の尊さを改めて考えさせる出来事もありました。7月28日に発生した令和8年熊本地震、そして8月に千葉県を襲った豪雨により、多くの方々の暮らしが大きな影響を受けました。お亡くなりになられた方々に心からお悔やみを申し上げるとともに、被災されたすべての皆様にお見舞い申し上げます。災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。そして、家族と過ごすこと、友達と話すこと、学校に通い、仲間とともに学ぶことは、決して当たり前ではないことを私たちに教えてくれます。二学期を迎え、生徒たちが元気に学校へ戻ってきてくれたことを、まず何よりうれしく思います。学校には、生徒たちの命と安全を守る責任があります。日頃の備えを改めて確認するとともに、一日一日の学校生活を大切にしながら、生徒たちの成長を支えていきたいと思います。

二学期、新たなステージへ

二学期が始まりました。始業式では、生徒たちに「二学期は、一人ひとりのステージが一段上がる学期」であるという話をしました。ステージが上がるとは、単に役割が変わることではありません。立つ場所が変わることで、これまで見えなかったものが見え、分からなかったことが分かるようになること。それも大切な成長です。

三年生は、学校を引っ張る立場から、後輩に「任せ、支え、つなぐ人」へ。二年生は、三年生を支える立場から、「学校の中心となる人」へ。そして一年生は、「教えてもらう人」から、自分たちで考え、行動する人へ。それぞれが次のステージに進んでいきます。

本校が大切にしているのは、「自ら考え、判断し、行動する」生徒の育成です。先生に言われたからするのではなく、「なぜそうするのか」「もっとよくするにはどうしたらよいか」「自分には何ができるのか」を考え、仲間と話し合い、実際に行動してみる。二学期は、そうした経験をこれまで以上に大切にしていきます。

時には失敗したり、意見がぶつかったりすることもあるでしょう。私たち教職員は、必要なときにはしっかり支えながら、生徒自身が考え、成長していく姿を見守っていきます。「自分たちの学校は、自分たちでつくる。」二学期も、生徒たちの挑戦を大切にしていきます。

二年生「職場体験」を終えて

夏休み中、本校二年生が三日間の「職場体験」に取り組みました。地域の事業所や施設等で、普段の学校生活では経験できない「働くこと」を実際に体験する貴重な機会となりました。

慣れない環境の中、最初は緊張した表情を見せていた生徒たちも、担当の方のお話をよく聞き、挨拶や返事を心掛けながら、一つ一つの仕事に真剣に取り組みました。働くことの大変さだけでなく、人の役に立つ喜びや、周囲の方と協力することの大切さを実感した生徒も多かったことと思います。学校とは違う場所で懸命に頑張る姿に、生徒たちの確かな成長を感じました。

職場体験の目的は、単に「仕事を体験する」ことではありません。社会の中で自分がどのように人と関わり、役割を果たしていくのかを考えるとともに、自分自身のよさや課題、将来の生き方について考えることにあります。今

回の経験を、これからの学校生活の中でどのように生かしていくのが大切です。

ご多用の中、生徒たちを温かく迎え、丁寧にご指導いただきました町内外37の事業所・施設の皆様に、心より感謝申し上げます。地域の皆様に支えていただきながら、生徒たちは学校の中だけでは得られない多くのことを学ぶことができました。本当にありがとうございました。



スタディクーポンを活用した夏休みの学び

夏休み中、本町の「スタディクーポン」を活用し、希望する生徒たちが5日間のオンライン学習に取り組みました。学習する教科は、一人ひとりが自分で選択しました。画面に向かいながら、それぞれが自分の課題と向き合い、集中して学習する姿が見られました。夏休みという時間の中で、自ら学ぶ機会を選び、一生懸命に取り組んだ経験は、これからの学習にもつながっていくものと思います。

今回は参加希望者が多く、夏休み中に参加できなかった生徒もいました。その生徒たちは、冬休みに実施する学習会に参加する予定です。上峰町では、生徒一人につき3万円分のスタディクーポンをいただいています。これは、生徒一人ひとりの「学びたい」という気持ちを応援していただいている、大変ありがたい制度です。今回のオンライン学習だけでなく、それぞれが自分に合った学び方を考え、この機会を有効に活用してほしいと思います。すべての生徒が、自分自身の成長のためにスタディクーポンを生かしてくれることを願っています。

大人が先回りしないということ

夏休みを終え、学校に戻ってきた生徒たちの姿を見ながら、改めて考えていることがあります。それは、私たち大人が「生徒のために」と思ってしていることが、本当に生徒の成長につながっているだろうか、ということです。生徒が困っていると、つい助けたくくなります。忘れ物をしそうな声をかけ、うまくいかないことがあれば方法を教え、友達とのトラブルがあれば大人が解決しようとする。それは、生徒を大切に思うからこそその行動です。しかし、大人が先回りすることで、生徒が自分で考え、判断し、行動する機会を奪ってしまうこともあるのではないのでしょうか。

本校が目指しているのは、「心豊かに、たくましく生きる力」を、「自ら考え、判断し、行動する学校生活」を通して育成していくことです。そのためには、教師がすべてを教え、整え、解決する学校ではなく、生徒自身が考え、仲間と話し合い、時には迷ったり失敗したりしながら前に進む学校でありたいと思っています。

一学期、体育大会や生徒会活動など様々な場面で、生徒たちに「任せる」ことを大切にしてきました。もちろん、すべてがうまくいったわけではありません。しかし、その試行錯誤の中こそ、「自分たちでできた」という実感や、次はどうすればよいかを考える力が育っていると感じています。

二学期も、必要なときにはしっかり支えながら、必要以上には手を出さず、生徒が自ら動き出すのを待つことを大切にします。学校でも家庭でも、生徒の成長を願う気持ちは同じです。だからこそ、ときには「すぐに助けない」「少し待ってみる」ことも、大切な支援だと考えています。

二学期、生徒たちはそれぞれ一段上がったステージに立ちます。自分で考え、判断し、どんな一歩を踏み出していくのかを楽しみに見守っていきたいと思います。今学期も本校の教育目標をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。